

明石工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	防災リテラシー	
科目基礎情報							
科目番号	0014			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「防災リテラシー」(森北出版)						
担当教員	鍋島 康之,本塚 智貴						
到達目標							
(1) わが国で発生する自然災害について理解し, 減災・防災に関する知識・意識・技能を習得する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		わが国で発生する自然災害について詳細に説明でき, 減災・防災に関する知識を習得しているだけでなく, 行動できる。		わが国で発生する自然災害について説明でき, 減災・防災に関する知識を習得している。		わが国で発生する自然災害について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (D)							
教育方法等							
概要	社会生活における様々な場面で、あるいは所属する組織において、減災・防災のリーダーとなるべく、災害を理解し減災・防災に関する知識・意識・技能を習得するとともに、希望者には防災士資格の取得を目指す。						
授業の進め方・方法	各テーマの担当者による講義形式で行うが、クロスロードゲームような協同学習も含む。						
注意点	災害が多発する先進国である日本で生きていくために、最低限知っておくべきことを学びます。現実の社会での出来事にも関心を持って学習し、将来、防災リーダーとして活躍してもらうことを期待しています。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス, 災害とは		わが国における近年の自然災害について理解し、防災・減災の概念について説明できる。		
		2週	クロスロードゲーム		災害時にとっさの判断を適切にすることができる。		
		3週	地震災害		わが国における地震について発生原因など基本的な事項ならびに住宅の耐震化について説明することができる。		
		4週	津波災害		地震に伴う津波の発生原因など基本的な事項について説明できる。		
		5週	気象災害(台風・豪雨・異常気象)		台風や豪雨による洪水災害や異常気象の発生要因やその防止・軽減対策について説明できる。		
		6週	土砂災害(地震, 豪雨災害)		地震や豪雨に伴う土砂災害の発生要因やその対策について説明できる。		
		7週	火災・救急・救助活動		火災などの災害発生時における救急・救助活動の現状について説明できる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	ライフラインの被害と復旧		大震災でのライフラインの被害と復旧, 災害に強いライフラインの構築について説明できる。		
		10週	復興計画および復興まちづくり		地震などの災害発生後の復興計画や復興まちづくりについて説明できる。		
		11週	災害時における情報に関する話題		災害発生後の情報の流れや重要性に関する基本的な内容を説明できる。		
		12週	避難所運営と仮設住宅の暮らし		災害時の避難所の実情や運営方法について説明できる。		
		13週	災害時の要配慮者への対応		災害時において特に配慮を要する人々への対応事例とその課題について説明できる。		
		14週	自主防災組織・地域防災計画・ハザードマップ		明石市の地域防災計画ならびに自主防災組織の活動について説明できる。		
		15週	災害リスクマネジメントと事業継続計画		災害時に対するリスクの評価ならびに対策について学習し、事業継続計画について説明できる。		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。		3	
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。		3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。		1	
				合意形成のために会話を成立させることができる。		1	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。		1	
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。		1	

			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
			目標の実現に向けて計画ができる。	1	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	

評価割合

	試験	その他	合計
総合評価割合	100	0	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0